

選択音楽科学習指導案

日 時 平成16年10月13日(水) 5校時
学 級 選択教科A音楽選択コース
(3年 男子 1名 女子 2名
2年 男子 1名 女子 7名 計11名)
指導者 教諭 菊池 寛

- 1 題材名 ア・カペラの楽しみ
－ Happy birthday Silent night (arr. コスハラ-ス) 桜坂 島唄(生徒選択曲)
－

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、学習指導要領A表現・ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること。」イ「曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと。」キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること。」に関連した内容である。

特に、伴奏のないア・カペラ合唱に取り組むことで、声部の役割や全体の響きの調和を感受し、表現する技能、また、Mthや9th、aug、dim等の複雑な和声やリズムなどの効果の感受や技能も身につけることができると考える。

(2) 生徒観

本校では、合唱活動が盛んで1学期の合唱発表会、2学期の合唱コンクールを主な目標として各学級で意欲的に合唱に取り組んでいる。また、行事や集会の際にも生徒が自主的に合唱を取り入れるなど、合唱活動に対する関心は高い。

最近テレビ番組の影響からか、ア・カペラの美しさ、楽しさが取りざたされるようになった。生徒の希望理由をみると、以前のこの講座の発表などの影響からア・カペラをやってみたいという生徒が多く、関心は高い。しかし、よく響く発声や和声感など技能面で課題を感じる。

(3) 指導観

ア・カペラの導入として、短く簡潔な教材を選び和声感や声部の役割を意識させつかませていきたい。また、これまで必修で身につけた、基本的な三和音による作品から一步進んだ和声にふれさせながら表現の可能性の広がりを感じ取らせたい。そして、よく響く場での活動や録音でのフィードバックを通して、発声や和声感について気づかせながら、技能について指導していきたい。その上でインターネットやカタログ等の情報から生徒に教材を選択させたり、文化祭での発表を目標とさせることで意欲を引き出していきたいと考える。

3 学習指導目標

【音楽への関心・意欲・態度】

- ・声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて意欲的に合唱する。

【音楽的な感受や表現の工夫】

- ・全体の響きの美しさを感じ取って合唱の表現を工夫する。
- ・曲想やリズムにあった発声やアーティキュレーションを工夫している。

【表現の技能】

- ・全体の響きに調和させて合唱を表現する技能を身につける。
- ・曲想やリズムにあった発声やアーティキュレーションを表現できる。

4 指導計画（総時間数 18時間 本時 18 / 18）

時間	学習内容		評価規準		
			音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
1	オリエンテーション パート分け Silent nightの範唱を聴く	・歌う姿勢、呼吸法に留意し発声練習やハーモニー練習を行う。	・人間の声の表現力の豊かさやハーモニーの美しさに関心を持ち、意欲的に鑑賞できる。	・音楽の構成を理解し、表現の豊かさや全体の調和を聞き取っている。 ・7thや9th、augやdimのハーモニーを感じ取ることができる。	・3和音のハーモニーを作ることができる。
3	Silent night	・各パートに分かれ練習する。 合唱する。	・練習に積極的に参加することができる。 各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組みに関心を持っている。	・7thや9th、augやdimのハーモニーを感じ取ることができる。 ・曲想やリズムにあった発声を工夫することができる。	・歌う姿勢・呼吸法に注意し、響く声で美しいハーモニーを作ることができる。 ・曲種に応じた発声を工夫できる。
3	Happy birthday	・各パートに分かれ練習する。 合唱する。	・練習に積極的に参加することができる。 各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組みに関心を持っている。	・7thや9th、augやdimのハーモニーを感じ取ることができる。 ・曲想やリズムにあった発声を工夫することができる。	・強弱や声部間のバランス、テンポやアーティキュレーション、発音等表現要素に配慮して効果的な表現を工夫している。 ・7thや9th、増和音や減和音など複雑なハーモニーを正しくとることができる。
1	グループ分け・曲選び	・グループ毎に選曲。	・グループ毎にインターネットなどを利用して選曲する。	・自分の興味のある曲を積極的に探すことができる。	
4	選択曲の合唱	・選択曲の音と	・練習に積極的に参加することができる。		・7thや9th、増和音や減和音など複雑なハーモニーを正しくとることができる。

4	選択曲の合唱	・ 選択曲の表現の工夫。	・ 各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組みに関心を持っている。	・ 曲想やリズムにあった発声を工夫することができる。 ・ 曲のイメージを身体全部で表現しようとする。 ・ 7 t h や 9 t h、augやdimのハーモニーを感じ取ることができる。	・ 強弱や声部間のバランス、テンポやアーティキュレーション、発音等表現要素に配慮して効果的な表現を工夫している。 ・ 自分のイメージを生かして表現することができる。
2		・ まとめ。	・ 声部の役割を生かし全体の響きに調和させて意欲的に合唱する。	・ 全体の響きの美しさを感じ取って合唱の表現を工夫する。	・ 全体の響きに調和させて合唱を表現する技能を身につける。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて意欲的に合唱する。 (関心・意欲・態度)
- ・ 全体の響きの美しさを感じ取って合唱の表現を工夫する。 (感受や表現の工夫)
- ・ 全体の響きに調和させて合唱を表現する技能を身につける。 (表現の技能)

(2) 本時の評価項目

具体的評価規準 評価の観点	A 充分満足できる。	B 概ね満足できる。	C 努力を要する生徒への手だて
声部の役割を生かし全体の響きに調和させて意欲的に合唱する。 観点1	全体の響きのバランスが悪い箇所の練習の仕方をいろいろ提案している。	全体の響きのバランスが悪い箇所の練習を熱心に行っている。	個別にアドバイスし自信を持たせる。
全体の響きの美しさを感じ取って合唱の表現を工夫する。 観点2	全体の響きのについて聞き取ったことをイメージとともに細部にわたって述べたり記述したりしている。	全体の響きのバランスが悪い箇所を克服するための意見を述べたり記述している。	周囲の生徒の意見を参考にして考えさせる。
全体の響きに調和させて合唱を表現する技能を身につける。 観点3	正しいハーモニーでメロディーを意識しバランスをとりながら合唱している。	正しいハーモニーで合唱している。	教師が同じパートを歌いながらハーモニー感を持たせる。

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	教師の支援・教材・教具等	評価項目
導 入 10 分	1 前時の録音を聴く。 2 前時の反省を確認する。	良い部分を評価する。	集中して聴いている。(観察) 意見を述べることができる。(発言)
展 開 30 分	メロディーが聞こえるようにバランスを整えよう。		
	3 グループ別の練習を行う	Bグループ(桜坂)の指導。 ・バランスの良くない部分を指摘する。 ・教師と一緒に歌いながら支援する。(12分)	・主旋律と伴奏パートのバランスを工夫している。(観察)
	4 まとめの合唱の録音	Aグループ(島唄)の指導。 ・バランスの良くない部分を指摘する。 ・教師と一緒に歌いながら支援する。(12分) ベースパートの補助	・意欲的に合唱している。(観察)・正しいハーモニーで合唱している。(観察)
終 末 10 分	5 録音を聴き自己評価を記入する。 6 まとめ	良い部分を評価する。 文化祭での発表と放課後練習の予告をする。	バランスが悪い箇所を克服するための意見を記述している。(自己評価)